

映像で建築を味わう

神戸芸術工科大学 学長
Shuichi Matsumura

刑事コロンボ

若いと思っていたらいつの間にか高齢者になっていた。

ように、私の思い出す固有名詞が普通の日本人に通じにくくなつてきていて困つてしまふ。一九七〇年代に日本のテレビで放映され、本国アメリカと同様に大人気番組となつた「刑事コロンボ」もそのくちだ。

田村正和主演で一九九〇年代から二〇〇〇年代にかけて人気だった「古畑任三郎」はまだ多くの日本人にわかるようなので、「古畑任三郎」がお手本にしたアメリカの刑事ドラマ」と説明して会話を成り立たせるのがやつとだ。

十月初旬、その「刑事コロンボ」を突然観たくなつて探したところ、ある動画配信サービスで六九話すべてが観られると知り、早速登録した。一九六八年にアメリカでパイロット版として放映されたという第一話は、邦訳「殺人処方箋」。殺人犯役は、一九六〇年代半ばに日本でも放映されていたアメリカの刑事ドラマ「バークにまかせろ」の主役を

クールに演じたジーン・バリーだ。
ここまでのことろ、若い読者にとつてはちんぶんかんぶんだろうが、話をここで止めるわけにはいかないの
で、申しわけないが続けさせてもら
いたい。

この第一話を観ていて、いよいよ
コロンボが殺人犯を追い詰める最後
の場面で、思わず声を上げてしまつ
た。かつて私も訪れたことのある、

建築界ではまずまず知られたハリウッドの有名住宅そのものが舞台で、一〇分弱の場面が、セットではなく、その住宅で撮影されていたのである。わざわざ西海岸まで見学に行かなくても、この場面を見れば、住宅の内観や外観はもちろん、庭やロケーションまで、すっかりわかるほどに長い場面だつたので、思わず声が出たわけだ。



テレビドラマの撮影風景(神戸芸術工科大学 2025年夏)

映画の場合

一つ目は、「一九五三年のイタリ
ア・アメリカ合作映画「終着駅」。
原題はずばりローマの「テルミニ
駅」。モントウーリの設計によつて
完成してまだ二、三年の、流れるよ
うな構造表現のフロント部分の内
部が、何度も何度も映し出される。
一〇分どころではなく、映画の全編
にわたりこの駅が出てくるような印
象だから、本当に自分がそこに行つ
た気持ちになれる。

二例目は、一九八〇年代にパリ郊外の新しいニュータウンの様子を知

りたいとフランスの友人に相談したところ薦められた映画「友だちの恋人」。まさしく当時まだ開発して間もなかつたニュータウン「セルジーポントワーズ」を舞台にした映画で、そこでの暮らしぶりもたっぷり描かれている。フランスのニュータウンと日本のそれとの違いに興味がある人などは、大いに参考になるとと思う。

代のアルジエリア戦争を描いた映画だが、実際のアルジェの旧市街で、しかも実際の戦争で戦つた人々や一般市民が多数登場して撮影された異色の作品で、二十世紀の戦争映画の最高傑作と称せられることもある。ここでは、町中の複雑な街路の様子からアジトを含む住居内の空間配置のあり様までが、緊迫感を伴つて映し出される。凄い映像だ。

実際私が経験した映像の例で、ぱつと思い付くものを三つだけ挙げておこう。いずれも映画作品である。

100

われ、何名かの学生たちも登場しつつ、中庭、アトリエ教室、購買部等が、人の動きを伴つて映像化されたのである。

われ、何名かの学生たちも登場しつつ、中庭、アトリエ教室、購買部等が、人の動きを伴つて映像化されたのである。

「すべての恋が終わるとしても」というのがドラマのタイトル。十月十二日の初回放送で、その映像を確認することができた。やはり、人の動きや声までが入った映像は、施設写真ではなかなか伝えられない建築空間の質のようなものをすばり伝えてくれる。

建築の一つの楽しみ方である。

われ、何名かの学生たちも登場しつつ、中庭、アトリエ教室、購買部等が、人の動きを伴つて映像化されたのである。

「すべての恋が終わるとしても」というのがドラマのタイトル。十月十二日の初回放送で、その映像を確認することができた。やはり、人の動きや声までが入った映像は、施設写真ではなかなか伝えられない建築空間の質のようなものをすばり伝えてくれる。

建築の一つの楽しみ方である。

身近なところでも